

レプトスピラ症

ー川でのレジャーで知っておきたいことー

レプトスピラとは、主にネズミやマングースなど野生動物の腎臓にいる細菌であり、尿とともに排泄されます。ヒトは、感染動物と直接接触することでも感染しますが、多くの場合、尿に汚染された土壌や水との接触により皮膚の傷や鼻や口などの粘膜から感染します（図1）。沖縄県の過去8年間の患者発生状況を集計すると、河川でのレジャーや労働が主な感染機会となっています（図2）。

レプトスピラ症は、感染から1～2週間後に38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛などの症状があらわれます。治療にはペニシリン、ストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされていますが、治療が遅れ、重症化すると、黄疸、腎障害などが起こることもあります（図3）。

予防・対策として次の①～③があります。

- ① 体に傷がある場合は川遊びを控える。
- ② 川遊びをする際は、服装やはき物等に注意して傷をつくらないようにする。
- ③ 川に入って2週間以内に発熱等の症状が出たらすぐに医療機関を受診する。

また、観光客が県内旅行中に川遊びをして帰宅後に発症するケースもあるため、山や川でのレジャー関係事業者はレプトスピラ症について観光客へきちんと説明をすることも重要です。

特に8～9月は患者数が多くなる時期です（図4）。レプトスピラ症に注意して、安全なレジャーを行って下さい。



図1. 人への主な感染経路

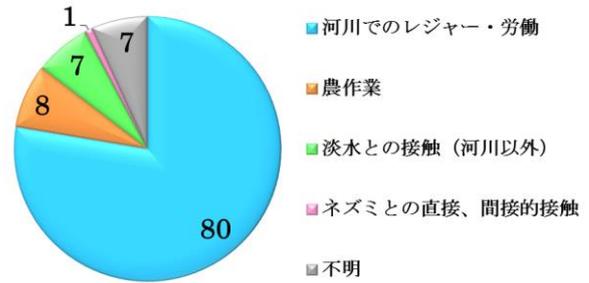


図2. 感染機会別患者数（2008～2015年）

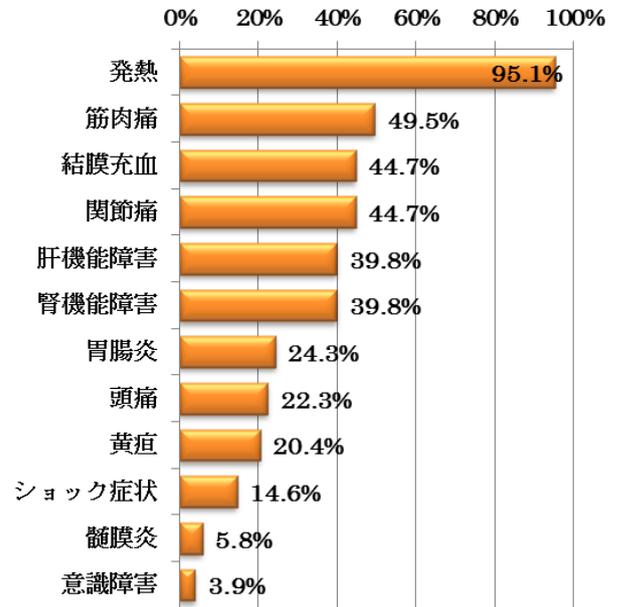


図3. 症状別発生割合（2008～2015年）

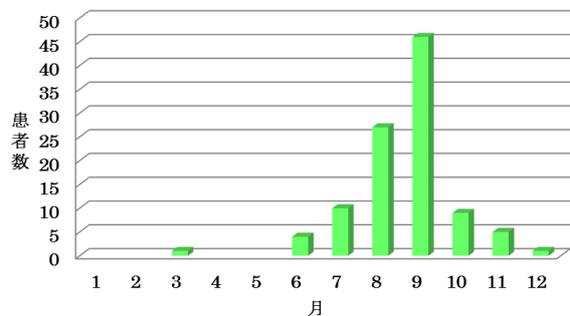


図4. 月別患者数（2008～2015年）

【衛生物班】